

ASEAN グローバルプログラム に参加して

齋 藤 鞠

Mari SAITO

機械システム工学科 2年

1. はじめに

2018年8月28日から9月6日にかけて ASEAN グローバルプログラムに参加し、ベトナムの首都ハノイとシンガポールに滞在して、日系企業訪問、現地企業訪問、ハノイ工業大学の学生とのPBL、南洋理工大学訪問、シンガポールでのビジネスパーソンの講演と交流会を行った。具体的な日程・内容は下記の表1に示す。今回のプログラムの目的は、ASEAN地域の大学・企業と連携し、現地学生とのPBLを通じた交流や、現地企業を視察し若手企業人との交流を通じて、ASEAN地域の文化、産業、日本との関わりを学ぶ事であった。

表1 日程表

日程	内容
8月28日	オリエンテーション
8月29日	栄光堂, Rikkei Soft 訪問
8月30日	ハノイ工業大学学生と PBL 開始
8月31日	PBL 発表
9月1日	ハノイ観光
9月2日	シンガポール着 WASABI CREATION 講演会
9月3日	南洋理工大学見学
9月4日	Google 訪問, ビジネスパーソンの交流会, 加藤氏講演会
9月5日	自由行動, シンガポール出国
9月6日	帰国

2. 参加目的

プログラム参加にあたって私が立てた目標は2つあった。1つ目は様々な国の文化や価値観に触れ、

世界を広い視野で捉えられる柔軟な考え方を学び、現在のグローバル社会を客観的に見て海外で働くとはどういうことなのかを知ることであった。私はこれまで短期間ではあるが海外の語学研修に行ったことがあった。そこでは、英語やその国々の文化や生活について学ぶ事はできたが、実際に自分が海外で働くという事については考えられず、グローバル社会において各国の社会や産業が日本とどのように関わっているのかを詳しく考えたことはなかった。

2つ目は自分を見つめ直し、PBLを行うことで実践的な語学力を養うことや、積極的なコミュニケーションを行う事であった。また、物事をやり遂げる自立心や自分の意見を持ち主張する意志力、相手の考えを尊重する共感力、プレゼンテーション能力を高めたかった。そこで、このプログラムでは今後、将来的に海外や外資系企業で働くこととはどういうことか、また世界で活躍できる技術者になる為に自分はどうあるべきかを見つめ直したいと考え、このプログラムに参加した。

3. 研修内容

今回の研修の行程の中で特に日本との差を感じ、印象に残ったシンガポールの南洋理工大学の見学について以下に詳しく述べる。この大学は世界ランキング11位、アジア1位と、とても高い評価を受けている国立大学で、理工系大学として世界最大級の200ヘクタールもの広さがあり、その中で約35,000人もの学生が勉強している。私が南洋理工大学を見学し、最初に興味深く思ったのは、様々な人種と宗教の方々が混ざって学んでいたことだった。日本の大学ではほとんどが日本人で構成されており、留学生もそれほど多くない。しかし、シンガポールは民族混合政策により、マレー系、華僑、インド系などが混じり合っている。建国時から「人種、言語、宗教によらず民主的な社会を築くことを正義と平等に基づいて我々の国の幸福、繁栄、発展を成し遂げるために」という誓いがあり、同じ場所で様々な人種が共に暮らしている国であるという事が大学で如実

に表されているように思えた。

今回のプログラムでは、南洋理工大学の教授の講義を受けさせて頂いた。講義内容は機構に関する講義で、私が龍谷大学で受けたことのある講義であった。講義内容は似たものであった為、英語ではどのように教えられるのか日本の講義との比較をしながら講義を受けることができ、とても充実したものであった。その講義の中で、教授が学生に質問をしたり、演習問題を出したりしていた。そういった講義形態の中で学生が自主的に参加している姿を見、日本と海外の大学の学生の差を感じた。日本では講義を受け身に受講しがちになってしまうが、海外では積極的に自分から行動する人がほとんどであるように思えた。今後、海外の学生のように積極的に自主的に様々な事に挑戦する事を心がけ、日頃からの行いを見直し、行動力を身に付けたい。

また、医療補助用ロボットや、作業ロボットの研究室、3Dプリンタなどを用いた自動車に関する研究室、航空エンジニアリングに関する研究室などを訪問した。学生が自主的に様々な物を作成し、取り組みに参加している姿を見て、とても充実した研究や学生生活を過ごしているように思った。特に航空エンジニアリングに関する研究では、シンガポール航空や、ロールスロイスといった大手企業と共同開発している事から、大学での研究が直接企業や産業に繋がっており、世界の最先端を創っている事を実感できた。

4. おわりに

今回のプログラムを通して、多くの事を学び、自分に足りないもの、改善するべきところを知り、自分自身を見直すきっかけとなった。特に今回のプログラムの目標としていた、今まで漠然としか考えて



写真1 自動車に関する研究

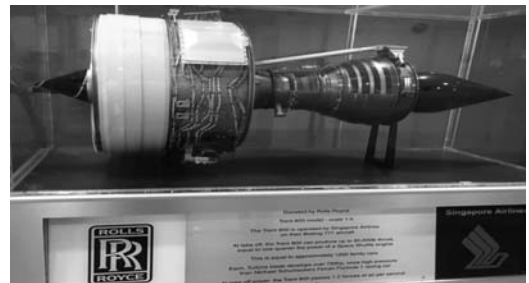


写真2 航空エンジニアリングに関する研究

いなかったこれからの将来や自分が今後どのようになりたいのかについて考える良い機会になった。また、近年の発展がめざましい東南アジア諸国に行ったことでそれぞれの文化、生活、価値観を学び、世界をより広い視野で捉えられるようになった。この10日間の研修の中で私は受け身の姿勢ではなく、自分から積極的に行動する事を心がけて過ごした。そうすることで、自分の行動範囲が広がり様々な選択肢が増えたように感じた。これからの学生生活を今よりももっとと有意義で、将来自分のやりたいことができるように日々挑戦する事を恐れず、積極的に自分から行動する事を心がけたい。また語学力の必要性も痛感し、特に英会話を今後も続けていこうと考えている。